

全国発信記事 ▲▽▲▽ 東北地方支部 — いか釣り船団出航式 —

山形県酒田港から中型いか釣り漁船が出港！

6月11日、いかの町酒田の港・袖岡ふ頭でいか釣り船団出航式が行われ、中型いか釣り漁船の第86若潮丸、第31永宝丸、第88輪島丸、第68栄成丸の4隻が出港した。出港するいか釣り船団の安全操業と大漁、航海の無事を祈願するこの行事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年まで2回続けて中止したが、今回は3年ぶりの開催となり、家族や関係者など約1500人の見送りを受け、4隻は大漁旗と5色のテープをはためかせ、日本海の漁場へ向かった

▽3年ぶりの出航式・大漁と安全を祈願

出航式は安全と大漁の祈禱の後、式典が執り行われ、丸山至酒田市長は「酒田港にたくさんのイカが揚がるよう、市も手を携えていく」とあいさつし、山形県漁業協同組合の本間昭志組合長は「酒田港の水揚げの半数以上は船団による船凍イカ。漁場形成も安定しない中、本県漁業に貢献している船団を支えてほしい」と述べた。

▽課題は山積しているが大漁目指す！

続いて、第86若潮丸の本間健漁労長（船団長）からは出航式開催への謝意が述べられ、「これから向かう操業漁場や後継者問題など取り組まなければならない問題が山積しているが、地域振興のためにも大漁する」とあいさつした。

乗組員が出港の準備にとりかかると、岸壁では太鼓の音が鳴り響き、イカ焼きやジェラート、イカの加工品などの出店も、見送りに集まった人々でにぎわった。乗組員が出港準備を終わらせ船が岸壁を離れだすと「行ってこーい」「頑張って」などの掛け声の中、船は港内を回り汽笛を響かせながら出港した。

船団は日本海の好漁場・大和堆などを目指し、早ければ7月下旬以降に一時帰港し、武蔵堆周辺などでもイカの群れを追い、漁は来年の2月ごろまで続く。

「海員だより」